

「そのとき、イエスはニコデモにいわれた」「モーセがあれのでへびをあげたように。ひとのこもあげられねばならない。それは、しんじるものがみな、ひとのこによってえいえんのいのちをえるためである。かみは、そのひとりごをおあたえになったほどに、よをあいされた。ひとりごをしんじるものがひとりもほろびないで、えいえんのいのちをえるためである。かみがおんこをよにつかわされたのは、よをさばくためではなく、おんこによってよがすくわれるためである。おんこをしんじるものはさばかれない。しんじないものはすでにさばかれている。かみのひとりごのなをしんじていないからである。ひかりがよにきたのに、ひとびとはそのおこないがわるいので、ひかりよりもやみのほうをこのんだ。それが、もうさばきになっている。あくをおこなうものはみな、ひかりをにくみ、そのおこないがあかみにだされるのをおそれて、ひかりのほうにこないからである。しかし、しんりをおこなうものは、ひかりのほうにくる。そのおこないがかみにみちびかれてなされたということが、あきらかになるため。

このふくいんしよをゆつくりよめば、わかってくるとおもいますが、リーダーはどういうふうにせつめいをしたらもっとわかるのかな、とすこしなやみました。

ファリサイはのぎいんで、きょうしでもあったニコデモというひとにイエスさまはちなるかみさまのたいせつなメッセージをおしえてくださった。「かみは、そのひとりごをわたしたちにあたえてくださったほど、このよ(せかい)をあいされた。」かみさまは、すべてのひとがすくわれることをのぞんでおられる。しかしにんげんはわるいことをいっぱいして、それがわるいことだときづいていないときに、それはくらやみのなかにいる。かみさまはにんげんがますますわるくなっていくのを見て、ごじぶんのだいすきなひとりごをこのせかいにおくことにしました。それはイエスさまですね。イエスさまはひかりであり、このせかいをてらしていきたいのに、ひとびとは「やみ」をえらんだ。わるいことをしているわたしたちのころをてらして、そのわるいことをなおすためにひかりをあてて、そのことをもうぜつたいに2どと、しないとわたしたちにちからをあたえてくださる。やみをえらんだひとは、わるいことをしても、わるいとわからなくなっているので、さばきをうけるとイエスさまがいています。ほんたいにイエスさまについていきたいひとは、「ひかり」のほうをえらんだので、かみさまにみちびかれていきていくことになります。わたしたちも、かみさまのよびかけにこたえたいですね。

きょうはしじゅんせつのだい4のしゅじつです。イエスさまがじゅうじかにかけられたこととふつつさいがめのまえにありますね。フランスコキョウこうさまがこのしじゅんせつのあいだにすすめてくださっていることがあります。「わたしたちのまわりのひとをかなしめたり、おこらせたり、めいわくをかけたりするかわりに、ちからをあたえ、はげまし、ゆうきづけることばをかけましょう。このようにしたら、イエスさまがあたえてくださっているひかりがわたしたちのころをてらし、わたしたちはそのちからによってよいことをするようになります。イエスさまがわたしたちをすくうためにこのよにこられたので、かみさまにイエスさまをおくってくださいましたことをかんしゃしましょうね。

こんしゅうはイエスさまといっしょになにができるのでしょうか。「ほほえみ」「やさしいことばかけ」「おともだちのよいところさがし」?かんがえて、ひとつだけでもやりましょうね。